

令和 7 年度事業報告書

(令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで)

一般社団法人日本高圧力技術協会

【概要】

令和 7 年度においては、規格制定活動関連の強化に着手した。現在、数多くの専門研究委員会が活動を行っているが、その活動について規格制定活動とそれ以外の活動に整理して、計画を立案し、その実績を報告する体制とした。現状では、十分な成果が挙げられているとはいえないが、専門研究会を新設する場合の手続方法を定め、その中で規格制定に関する活動を明確化する方向で検討を継続している。一方、一部の委員会では若手委員の登用などの積極的な若返りを進めており、委員会活動を活性化されている。また、会誌のさらなる充実を目指して、査読体制の変革などを行った。さらに、令和 8 年度に控えた事務所移転の準備活動を行った。講演会、技術者認証、事務所移転に伴う対応の概要については以下に追記する。

当協会の活動として、春季講演会は会場による対面とオンラインによるハイブリッドで開催し、懇親会も行った。秋季講演会は、講演会、懇親会、見学会を秋田県秋田市、能代市で開催した。技術セミナーはオンラインにて 6 回開催し総数 317 名の参加を得た。また、認証講習会は令和 6 年度に引き続きオンラインと共に、外部会場を借り対面によるハイブリッド開催を行った。参加者は令和 6 年に比べ、圧力設備診断技術者レベル 1 は減少したがレベル 2 及びリスクマネジメント技術者は増加し、総数としては 5%ほど増加した。会場参加者は令和 6 年同様 30%弱である。理事会を始め委員会活動も対面が増えているもののオンライン会議の要望は依然高い。コロナ時代を経てテレワークの導入が進展し、働き方や暮らし方が大きく変容した。ハイブリッド会議など、社会のニーズに合ったコミュニケーションの確保を図ることが、活発な協会活動を維持継続するための必要条件となっている。

令和 8 年度事務所ビル取壊しに伴う事務所移転の財務的影響に対して、昨今の価格高騰の中、経営安定化に向けた対応として、長年据え置いてきた認証関係の受講料、受験料、登録料及び技術セミナー受講料の 15%値上げを実施した。

I. 会務関係活動

会務活動については、春季講演会・定時総会・各賞授与式・懇親会は令和 6 年度同様、都市センターホテルを会場とし実施した。参加者数は講演会 79 名、懇親会 53 名(事務局 5 名含む)となり盛況であった。経済産業省 イノベーション・環境局 GX グループ 脱炭素成長型経済構造移行投資促進課 高野冬馬様から「我が国の GX 実現に向けて」、JAXA 能代ロケット実験場 小林弘明所長から「JAXA 能代ロケット実験場の液化水素実験における安全技術」の 2 件の特別講演が行われた。懇親会は都市センターホテルのレストランにて立席により行われ、恒例により各賞受賞者のスピーチが行われた。秋季講演会は、秋田県の秋田市にぎわい交流館 AU を会場として対面のみで開催した。開催地への移動および現地宿泊は旅行者に依頼せず、参加者自身にて手配をお願いした。参加者数は講演会 49 名、懇親会 45 名、見学会 42 名(事務局 4 名含む)であった。東京大学 石原孟教授から「洋上風力発電技術の現状と将来展望」、JAXA 宇宙科学研究所 丸祐介准教授から「飛行機のように宇宙に行く：スペースプレーンとその技術」の 2 件の特別講演が行われた。翌日の見学会は、JAXA 能代ロケット実験場、AOW 風みらい館を視察した。

会誌「圧力技術」については、編集委員会のもとで、定期的な発行(隔月)を行い、会誌の電子ジャーナル編集・投稿・審査システムを活用し、「圧力技術」への投稿システムの投稿を促した。査読者の充実に向けて、投稿規則を改定し論文査読手順の見直しと最適化を進めた。

規格制定活動については、日本高圧力技術協会規格(HPIS)の法規制への引用及び民間規格としての活用を促進していくため、圧力設備規格審議委員会及びエネルギー貯槽等規格審議委員会で HPIS の改正、原案の審議を行った。また、本協会に関連する日本産業規格(JIS)の制定、改定を進めた。

認証事業活動については、BOK (Body of Knowledge ; 修得すべき技術内容)に基づく技術者評価試験を 12 月に東京と大阪で実施した。圧力設備診断技術者レベル 1 : 71 名、レベル 2 : 77 名、設備等のリスクマネジメント技術者 78 名を認証した。また、認証技術者の資格更新を行い、現有資格者の総計は、圧力設備診断技術者レベル 1 : 891 名、レベル 2 : 525 名、設備等のリスクマネジメント技術者 437 名となった。

教育講習活動については、「圧力設備診断技術者」「設備等のリスクマネジメント技術者」の BOK に基づく教育カリキュラムに則り、10月に各々2日間、合計6日間にわたってエッサム神田ホールとオンラインのハイブリッド開催にて講習会を行った。また、要望の多かったスライド集を今年度も配布した。

会員異動状況

令和7年度会勢動向は、団体会員では2社の入会、4社の退会、個人会員では11名の入会、9名の退会があった。

II. 事業関係活動

技術セミナー活動については、企画委員会、専門研究委員会により技術セミナー6回をオンライン配信にて開催した。令和6年度は5回合計291人、令和7年度は6回317名と回数が増えたが参加者は微増であった。オンラインによる参加し易さも有り、技術者の教育、情報収集の場として活用されている。

専門研究委員会活動については、産業界から注目を浴びる新たな分野として「高圧水素技術研究委員会 (PHT 委)」（委員長：吉川暢宏東京大学教授）、「保全分野への AI 適用に関する研究委員会 (AIM 委)」（委員長：水谷義弘東京科学大学教授）は、委員数急増のあと引き続いて活発な活動が進められている。既存の委員会では「圧力容器規格委員会(PVCS 委)」のもとに材料規格・維持規格・高圧容器規格の3分科会、「クラッド研究委員会(CLAD 委)」、「エネルギー貯槽等安全性専門研究委員会(EST 委)」のもと3委員会、「圧力設備のシーリング技術研究委員会(STOP 委)」のもと1WG、「3次元 FEM 応力評価研究委員会(TDF 委)」、「高温設計研究委員会(ETD 委)」、「リスクに基づく保全技術研究委員会(RBM 委)」のもと3WGは、それぞれの研究課題の検討、及び HPIS、HPI TR 作成の作業を、多くの団体会員委員の参加のもと進めている。

臨時専門委員会活動では、外部公的機関等より調査研究を受託し、臨時の委員会を立ち上げて活動している。独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 殿の「令和7年度タンク開放検査の合理化に関する調査 (板厚測定装置の開発とコーティングに関する業務)」を受託し、委員会にて実施した。一般財団法人 JCCP 国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関殿より、令和7年度基盤整備事業である「日本の最新検査技術導入による天然ガス移送設備管理のデジタルトランスフォーメーション支援(タイ)」に新日本非破壊検査株式会社と共に応募し採用された。タイ国 PTT へ日本の最新検査技術の紹介および PTT 技術者の日本招聘を行い、今後の技術協力の可能性を拡げた。

【活動内容】

I. 会務関係活動

1. 総会・理事会・会務関係

会合名	開催回数	委員会委員長 (敬称略)
定時総会	1回	[議長]吉川暢宏
令和7年度 HPI 各賞授与	1回	吉川暢宏
理事会	6回	吉川暢宏
企画委員会	6回	岡崎慎司
総務委員会	6回	板谷重基 (令和7年度総会まで)、 井上健裕 (令和7年度第2回から)
編集委員会	6回	水谷義弘
認証委員会	2回	阪上隆英
教育委員会	2回	辻 裕一
圧力設備規格審議委員会	1回	朝田誠治
エネルギー貯槽等規格審議委員会	0回	—
功績賞・貢献賞選考委員会	3回	—
科学技術賞選考委員会	3回	—

理事会は隔月で年 6 回開催し、以下の各会務、事業活動の事案の審議、承認及び活動状況の確認を実施した。令和 7 年度 HPI 各賞授与式は定時総会時に開催し賞状と記念品を授与した。

2. 令和 7 年度定時総会

開催日：令和 7 年 5 月 23 日（金）

会 場：都市センターホテル 6 階 606 号室 東京都千代田区平河町 2-4-1

議 案：第 1 号議案 令和 6 年度事業報告書の件
 第 2 号議案 令和 6 年年度決算の件
 第 3 号議案 令和 7 年度事業計画書の件
 第 4 号議案 令和 7 年度収支予算書の件
 第 5 号議案 令和 7 年度・令和 8 年度理事選任の件

2.1 令和 7 年度日本高圧力技術協会各賞の授与（順不同：論文受賞者所属先は投稿時点）

[貢 献 賞]

- ・江原和也君（日立 GE ニュークリア・エナジー(株)）
- ・金丸伸一郎君（日揮グローバル(株)）
- ・畑山 健君（総務省消防庁 消防研究センター）
- ・古郡利明君（千代田化工建設(株)）
- ・澤 俊行君（広島大学名誉教授）

[科学技術賞]

- ・受賞論文「機械学習を用いた樹脂ライナー複合高圧水素容器の最適設計仕様探索」
 （圧力技術第 62 巻 1 号）
 受賞者 竹本真一郎君（東京大学）、横山卓矢君（株 S U P W A T）

[科学技術振興賞]

- ・受賞論文「脱炭素化にむけたメタネーションプロセスの開発および実証の取り組み」
 （圧力技術 第 62 巻 4 号）
 受賞者 泉屋宏一君（元日立造船(株)）
- ・受賞論文「液化水素冷熱の利用を可能とする中間媒体式液化水素気化器の開発」
 （圧力技術 第 62 巻 5 号）
 受賞者 江頭慎二君、今用浩司君、西原達夫君（株神戸製鋼所）

[科学技術奨励賞]

- ・受賞者 杉山貴紀君（元東京工業大学）
 受賞論文「A Simplified Stress-Calculation for Each Layer and Stacking-Sequence Optimization Method in CFRP-COPV Cylindrical Part（CFRP 製複合圧力容器における胴部積層構成最適化のための各層の簡易応力計算法と最適化法）」
 （圧力技術 第 62 巻 1 号）
- ・受賞者 澤田京佑君（横浜国立大学）
 受賞論文「亜鉛合金をメカニカルプレーティング処理した鋼材の耐食性評価」
 （圧力技術 62 巻 5 号）

3. 定期講演会・見学会

種別	行事内容	開催日	場所	担当
講演会	春季講演会	5月23日 (金)	都市センターホテル6階606号室 オンライン配信とのハイブリッド開催	企画委員会
講演会	秋季講演会	11月6日 (木)	秋田市にぎわい交流館 AU 3F 多目的 ホール(秋田県秋田市中通) 会場での対面開催	企画委員会
見学会	秋季見学会	11月7日 (金)	JAXA 能代ロケット実験場(秋田県能代市)、 AOW 風みらい館(秋田県秋田市)、 秋田港洋上風力設備(車窓)	企画委員会

4. 会誌「圧力技術」の編集・発行等

会誌「圧力技術」は編集委員会のもとで年6回発行しており、1年間に論文は8件、解説3件、報告3件、紹介1件、合計15件の論文他を掲載した。

5. 規格制定活動

HPIS、HPI TR の法規制への引用、民間規格としての活用を促進していくため、各専門委員会により規格原案の制定、改正を進め、圧力設備規格審議委員会及びエネルギー貯槽等規格審議委員会のもとで原案を審議し、HPIS、HPI TR 規格の制定、改正を進めた。また、本協会に関連する日本産業規格(JIS)の制定、改正を進めた。

5.1 HPIS 関係

(1) 制定及び改正した規格

(制定)

HPIS Z103 圧力機器の高温亀裂状欠陥評価方法

(2) 制定及び改正に向け活動中の規格

(制定)

HPI TR C111 高温機器の疲労およびクリープ疲労評価法
大型液化水素貯槽指針

5.2 JIS 関係

(1) 制定及び改正した規格

(改正) JIS B 8248-2 円筒形多層圧力容器 — 第2部：特定規格

(2) 制定及び改正に向け活動中の規格

(制定)

鋼板に対する鋼製剛飛来物衝突における貫通限界速度及び貫通限界板厚の推定

(改正)

JIS B 0116 パッキン及びガスケット用語

JIS B 0190 圧力容器の構造に関する共通用語

JIS G 0601 クラッド鋼の試験方法

6. 国際活動

当協会の国際交流・活動の活性化のため、関係委員会のもとで、以下の活動を進めた。

- (1) 令和8年3月9日、第56回圧力容器規格(PVCS)委員会が開催された。ASME Board On Pressure Technology Codes and Standard (BPTCS) 中の BPV-VIII 及び SG-HPV, SG-Design, SG-Toughness(Sub Group)の WG の委員として審議に参加されている高圧容器規格分科会の寺田進主査より、令和7年11月に米国で開催された ASME Pressure Vessel Code Meeting の報告を行った。

- (2) 令和 7 年 10 月に令和 7 年度第 1 回、令和 8 年 2 月に第 2 回の日本圧力容器研究会議 (JPVRC) 運営委員会が開催された。本運営委員会は、鉄鋼協会 (事務局のみ参加)、日本溶接協会、HPI の圧力容器研究機関 3 団体を中心に構成されている。委員会では、設計部門 (HPI) および施工部門 (日本溶接協会) から活動状況の報告が行われた。10 月の委員会では設計部会の島川部会長より「HPI 高圧水素技術専門研究委員会 (PHT) の活動概要」、2 月の委員会では施工部会の戒田拓洋氏 (住友化学) より「供用適性評価関連の国内外規格の最新動向」の講演が行われた。

7. 認証事業活動

7.1 圧力設備診断技術者の認証制度

令和 7 年度圧力設備診断技術者レベル 1、レベル 2 技術者評価試験を東京及び大阪で実施した。また、認証者の 5 年毎の資格更新を行った。

評価試験及び更新者

	試験日	場所	受験者数	令和 7 年度 認証者数	令和 7 年度 更新者数	認証有資格者 総計
レベル 1 技術者 評価試験	12 月 7 日	東京	44 名	71 名	117 名	891 名
		大阪	47 名			
レベル 2 技術者 評価試験	12 月 7 日	東京	42 名	77 名	60 名	525 名
		大阪	46 名			

7.2 設備等のリスクマネジメント技術者の認証制度

令和 7 年度設備等のリスクマネジメント技術者認証試験を東京・大阪で実施した。また、認証者の 5 年毎の資格更新を行った。

評価試験及び更新者

	試験日	場所	受験者数	令和 7 年度 認証者数	令和 7 年度 更新者数	認証有資格者 総計
リスクマネジメント 技術者評価 試験	12 月 7 日	東京	61 名	78 名	29 名	437 名
		大阪	74 名			

8. 教育講習活動

教育委員会のもとで BOK (Body of Knowledge ; 修得すべき技術内容) に従い、令和 5 年から始まった会場とオンラインのハイブリッド開催にて下記の通り講習会を行った。また、要望の多いスライド集を今年度も配布した。

講習会

	開催日	受講者数
圧力設備診断技術者レベル 1 講習会	10 月 8 日、9 日	38 名
圧力設備診断技術者レベル 2 講習会	10 月 2 日、3 日	47 名
設備等のリスクマネジメント技術者講習会	10 月 16 日、17 日	48 名

9. 会員の異動

区分 年度		団体会員数				個人会員 総数	備 考
		I 種	II 種	III 種	計		
令和 6 年度末		3	10	64	77	158	
令和 7 年度	入 会	0	0	2	2	11	
	退 会	0	0	4	4	9	
	種(変更)	0	0	0	0	—	
令和 7 年度末		3	10	62	75	160	

II. 事業関係活動

1. 出版及び販売

(1) 日本高圧力技術協会規格(HPIS、HPI TR)の販売

(2) 講習会テキスト等の販売

- ・ 圧力設備診断技術者講習テキスト及び解答例付き過去問題集と、設備等のリスクマネジメント技術者講習テキスト及び解答例付き過去問題集を販売。

2. 技術セミナーの開催 (オンラインセミナー)

セミナー名	開催日	参加者数
圧力設備の材料、設計、施工、維持管理の基礎	6月5日(木)、6日(金)	87名
材料の損傷・破壊の基礎知識とその適用	7月9日(水)、10日(木)	82名
次世代のエネルギー貯槽・インフラ技術	9月25日(木)	40名
フランジ締結体の要素技術と設計・施工の基礎	10月31日(金)	57名
水素技術基礎講座－安全な機器運用のために－	11月26日(水)	31名
保全分野への AI 適用	12月11日(木)	20名

3. 専門研究委員会

委員会名	開催実績	HPIS 及び JIS の規格制定活動に関わる実績	規格制定活動以外の実績
圧力容器規格委員会 (略称: PVCS 委員会) (委員 34 名)	2 回		材料規格分科会、圧力設備維持規格分科会、高圧容器規格分科会、JIS B0190 改正準備分科会の分科会活動を統括した。
幹事会 (委員 14 名)	2 回		① 分科会活動の促進・調整を図る。 ② 圧力容器規格委員会の運営の促進を図る。
材料規格分科会 (委員 14 名)	2 回	① HPIS C 104、C 105 及び JIS B 8265、B 8267 の許容引張応力表の改正に関して、以下の検	

委員会名	開催実績	HPIS 及び JIS の規格制定活動に関わる実績	規格制定活動以外の実績
		<p>討を行った。</p> <p>1) JIS G 3128 SHY685NS の許容引張応力を新規設定した。</p> <p>2) JIS G 4304 及び JIS G 4305 の SUS821L1 の許容引張応力表にかかわる注(板厚制限)の改正と外圧チャートを確認した。</p> <p>3) ボルト規格 (JIS B 1051、JIS B 1054-1) の許容引張応力設定の可能性について、検討した。</p> <p>4) JIS H 3300 C1260 の許容引張応力の新規設定を行った。</p> <p>② JIS B 8267 の改正原案(附属書 B, C, D, E) を作成した。</p>	
維持規格分科会 (委員 12 名)	5 回	<p>① HPIS Z103 「圧力機器の高温亀裂状欠陥評価方法」の制定に関して圧力設備規格審議委員会に付議し、一部修正のうえ承認された。現在パブリックコメントを実施している。</p> <p>② HPIS Z101 Level1 の改定に向けて、各種最新規格の情報を収集し改定する箇所を議論した。</p>	
高圧容器規格分科会 (委員 9 名)	4 回	<p>① HPIS C 106 高圧容器規格の改正に関する改正項目を検討した。</p> <p>② JIS B 8248-2 円筒形多層圧力容器 第 2 部改正案を作成した。(当分科会委員が主体の原案作成委員会)</p>	<p>① PVP2024 の High Pressure Technology の論文紹介を実施した。</p> <p>② ASME Code Committee SG-HPV の議事に参加した。</p>
クラッド研究委員会 (略称: CLAD 委員会) (委員 7 名)	3 回	JIS G 0601 「クラッド鋼の試験方法」の改正原案を作成した。	クラッド鋼の製造・加工技術に関する文献調査並びに論文を作成した。
エネルギー貯槽等安全性専門研究委員会関連委員会 総合検討委員会(略称: EST 委員会) (委員 8 名)	1 回		委員会を開催した。
構造・設計専門委員会(略称: EST-1 委員会) (委員 18 名)	委員会: 8 回 幹事会: 7 回		石油、高圧ガス、LNG、LPG、水素、アンモニア等のエネルギー貯槽とその周辺設備の構造設計と地震に対する安全性評価、および国内外の

委員会名	開催実績	HPIS 及び JIS の規格制定活動に関わる実績	規格制定活動以外の実績
			<p>技術情報を調査するため、以下について発表・討論を行い、多くの知見を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保全サービスの統合型プラットフォーム ・ 過去 15 年間のアンモニア貯槽関連事故 <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波の水を感知し、電源を必要としない遮断弁の開発と実装 ・ グリーンアンモニアプラント及びアンモニアクラッキングプラントにおける水素ホルダ ・ 防油堤付き金属 2 重殻 LPG 貯槽のアンモニア転換時の安全性向上 ・ 地震荷重を受ける球形貯水タンクの制振システム ・ アルミニウム合金 6061-T6 の最適疲労曲線の構築と平均応力の補正方法 ・ 海外のアンモニアタンク動向と大型化に向けた取り組み ・ 最近のエネルギー貯槽の事故
<p>検査・安全専門委員会(略称：EST-2 委員会) (委員 14 名)</p>	<p>4 回</p>		<p>① 石油、LNG 等のエネルギー貯槽と設備に関する検査・計測技術、維持管理のためのロボティクス、デジタルツイン技術、安全・信頼性とリスク評価技術などについて Zoom 又は対面で国内外の調査、討論を行った。</p> <p>② EST-1-3 委員会の合同研究委員会を対面で開催した。</p>
<p>維持・管理専門委員会(略称：EST-3 委員会) (委員 18 名)</p>	<p>4 回</p>		<p>① 石油、LNG 等のエネルギー貯槽と設備に関する防食技術・腐食計測技術、維持管理に関連する最新動向・先進技術などについて情報収集、討論を行った。前年度に引き続き、参加者の利便性向上のため委員会は主に WEB 上で開催した。</p> <p>② EST-1-3 委員会の合同研究委員会を対面で 1 回開催した。</p>

委員会名	開催実績	HPIS 及び JIS の規格制定活動に関わる実績	規格制定活動以外の実績
<p>圧力設備のシーリング技術研究委員会（略称：STOP 委員会） （委員 17 名）</p>	<p>委員会：4 回 幹事会：10 回 WG：40 回</p>	<p>① JIS B 0116 パッキンおよびガスケット用語に関して、STOP 委員会メンバーを中心に規格改正原案作成委員会を設置し、規格改正案を作成した。</p> <p>② ワーキンググループ 2 にて、JIS B 2490 管フランジ用ガスケットの密封特性試験方法の改正に繋げるべく、検討項目を抽出し、調査を開始した。</p> <p>③ ワーキンググループ 3 にて、フランジ締結作業の認証制度を検討した。その中で、HPIS TR Z110 の見直しを検討した。</p>	<p>① HPI 技術セミナー「フランジ締結体の要素技術と設計・施工の基礎」を開催した。参加者 57 名。</p> <p>② ワーキンググループ 1 にて、漏洩率基準に基づく締結体設計法の確立に向け、比較的簡単な力学モデルを用いたフランジ締結体内力係数の推定法の精度向上に関する検討を実施した。</p>
<p>3次元 FEM 応力評価研究委員会（略称 TDF 委員会） （委員 10 名）</p>	<p>3 回</p>		<p>① Design by Analysis に関する ASME PVP Conference での最新情報を調査した。</p> <p>② ASME BPV Code Committee における Design by Analysis (特に弾塑性解析関連)に関する規格改定をフォローした。</p> <p>③ 各国規格の弾塑性解析設計規定を調査・比較検討した。</p> <p>④ FEM を用いた大規模解析の国内外の知見を調査した。</p> <p>⑤ ①から④で得られた情報に基づき、弾塑性設計規格の高度化を検討した。</p>
<p>高温設計研究委員会（略称：ETD 委員会） （委員 14 名）</p>	<p>3 回</p>	<p>以下の活動を行い HPI TR C111 「高温機器の疲労及びクリープ疲労評価法」 の原稿を完成させ圧力設備規格審議委員会に提出した。</p> <p>① 高温構造設計法（特に構造解析結果を活用した保守的な強度評価法）</p> <p>② 実現象シミュレーション法（安全評価、事故、トラブル時の実挙動と実強度の数値実験）</p> <p>③ データ・技術の共有と継承</p>	

委員会名	開催実績	HPIS 及び JIS の規格制定活動に関わる実績	規格制定活動以外の実績
保全分野への AI 適用に関する研究委員会 (略称: AIM 委員会) (委員 57 名)	委員会 : 3 回 WG: 3 回	機械学習を用いたさび検出に関する HPIS TR の制定に向けて活動した。	① 保全分野への AI 適用に関して情報収集を行った。 ② 保全分野への AI 適用に関するセミナーを実施した。 ③ 保全分野への AI 適用に関する基調講演を企画した。
高圧水素技術研究委員会(略称: PHT 委員会) (委員 72 名)	委員会 : 3 回 WG: 18 回	平底円筒型大型液化水素貯槽の技術基準を検討した。	燃料電池自動車用炭素繊維強化プラスチック製高圧水素容器の破裂圧力に関する安全率合理化の検討を実施した。
リスクに基づく保全技術研究委員会 (略称: RBM 委員会) (委員 16 名)	委員会 : 4 回 幹事会 : 4 回 WG: 4 回	HPIS Z107 の改正を目標として、管理システム評価係数の修正及び自然災害についての評価の見直しの検討を行った。(WG2)	① 石油精製プラントの脱硫装置について準備された PoF & CoF 評価手順を整理し例題集の作成を行った。原稿の再校閲を終了し、今後は出版等公開手法について検討を実施した。(WG1A) ② RBM 規格に係わる保全の現状の調査のため、下記の講演を実施した。 自然災害に起因した技術的な災害」について、「プラント運用情報の AI・機械学習による状態診断」について、ISO Risk の用語と概念に関する規格、AI によるプラント自動運転に関して」 ③ AIM 委員会との共同で進める生成 AI の保全活用の検討として、「生成 AI による RBM 規格学習の効果検証」を実施し報告を行った。

注：委員数は年度末の数値

4. 臨時専門研究委員会(受託調査研究)

委託者名	委員会名	開催実績	活動実績
<p>独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC) 殿 (委員：22名 高精度探触子WG：7名 腐食原因究明・塗膜評価WG：8名)</p>	<p>令和7年度板厚測定装置の開発とコーティングに関する業務 [新規]</p>	<p>委員会：3回 WG：3回</p>	<p>独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構委託調査にて、令和7年度タンク開放検査の合理化に関する調査(板厚測定装置の開発とコーティングに関する業務)を実施した。具体的調査項目は、以下の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 超音波連続板厚測定用高精度探触子の性能評価に関する業務を行った。 ② 多周波数探触子を実装した超音波定点板厚測定を行った。 ③ タンク底部コーティングに関する調査業務を行った。
<p>一般財団法人JCCP国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関 殿</p>	<p>令和7年度PTTにおける日本の最新検査技術導入支援化確認事業/新日本非破壊検査(株)と共同受託 [新規]</p>	<p>3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機構(JCCP)の産油国との友好関係構築プログラムに参加会社(新日本非破壊検査)とコンソーシアムを組んで参加した。 ② タイ PTT Public Company Limited(PTT)へ日本の最新デジタル検査技術の技術移転するために、キックオフ会議、ワークショップ、ラップアップ会議に参加した。 ③ PTT 若手技術者を招へいし、INPEX など日本企業を訪問し、技術交流を進めた。

以上